

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔書籍〕 （経営者）	・入学シーズンの繁忙期に入る。2万円弱の電子辞書の販売で、売上の上積みを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・酒の自由化により、新たに酒を販売できる店舗が増えており、期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・成人式需要同様にフレッシュ需要が分散化傾向にあり、友人同士での口コミでの来店が増えており、春物立ち上げへの期待が持てる。
		乗用車販売店（経営者）	・3月までは7年前の消費税率アップによる駆け込み需要のボリュームゾーンがある。その反動減が予想される4月以降も各社新型車ラッシュで、ある程度盛り上がりがある。
		住関連専門店（経営者）	・今月も企画を展開しているが、この企画は不発になっている。しかし自然増が後押ししており、少し良くなっている。
		観光型旅館（経営者）	・1～2月は厳しいが、3～4月と予約が先行している。大型団体が動く時期でもあり、確実な増収を期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年度切り替えの時期であり、入学祝いや歓迎会などのイベントに合わせた催しが増える時期であり、景気が良いわけではないが、昨年よりはやや良くなると感じている。
		住宅販売会社（経営者）	・展示場来場者は、まずまずである。年内実施されるローン減税延長の効果が徐々に出てきて、今よりは良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・市内では初めての大型マンションの供給を開始する。問い合わせ件数も多く、多少の期待を込め、やや良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・ひと頃よりは明るさを感じるが、消費そのものは、例えば薄型テレビやデジタルカメラなど、偏ったものであり、楽観視できる状況ではない。
		商店街（代表者）	・景況感にほのかな日差しが差し込む等の報道があるが、商店街全体、特に中小零細店においては依然厳しさが払拭されていないのが実情である。
		商店街（代表者）	・4月からの消費税総額表示や、扶養家族に対する増税、年金不安等将来に向かっての不透明な状況にある関係で、慎重な消費行動が続くと思われ、明るい話題が無いことから、あまり変わらない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・使う時は使いたいという人が多く、高級ブランドのカタログ注文という動きが定着しつつある。 ・地元の客だけを相手にしても限界がある。観光ボランティアガイドに参加しているが海外からの誘客はまだまだ成果が出ていないというのが現状である。
		百貨店（売場主任）	・昨年のイラク戦争のような特殊要因が無い限り、一般消費者の生活パターンは今より引締め傾向にはならない。緊縮生活パターンに慣れてきており、これ以上の悪化は考えられない。
		百貨店（売場主任）	・売場には一部新商品も入荷しており、春の提案を前面に出しているが、客の反応は今一つである。 ・常連客は確実に来店しており、モチベーション需要に期待している。ヒット商品や話題の商品などの話題をいち早くキャッチし、売場提案していく必要がある。
		百貨店（企画担当）	・3店あった百貨店が2店になったが、1店減っても売上に変化がない状態が数か月続いており、今後も変わらない。
		百貨店（広報担当）	・一部製造業等で回復の動きがあるように報じられているが、個人消費は未だ回復基調には無い。外的要因となるが年金問題や消費税、外交等の不安が払拭されないと個人消費は元来イメージ消費の要素が強いため、改善されない。
		百貨店（販促担当）	・円高基調の傾向や、SARS、鳥インフルエンザの問題などが解決しておらず、春のヒット商品が少ないという懸念材料はあるが、バレンタインや3月人形などの歳時記の当たりが良いので、ここでカバーしていく。
		スーパー（経営者）	・景気全体としては明るい印象であるが、小売業では大型店がどんどん出店しており、競争で価格が下がり、売上が伸びない状況である。
スーパー（店長）	・これからの時期は各社で決算になるため、前年並みの売上確保のための価格ディスカウントが強まる。今後も一品単価の下落が続き、売上の大きな変動はない。		

	スーパー（企画担当）	・昨年来実施してきた来客数と売上の拡大作戦が一巡し客もそれに慣れてきており、競争激化に伴う価格低下の状況に変わりはない。
	コンビニ（エリア担当）	・基本的に日常的な商品を販売しているため、特別高単価の商品が多く出るということは今後も考えにくい。日常的なものであるが故に増税などがあれば財布のひもは締まる。景気は上向いていると言うが、現場では感じられない。
	衣料品専門店（総務担当）	・取引先との商談の内容や、新卒者の就職率が低いことなどから、フレッシュな需要が見込めずこのままで推移する。
	乗用車販売店（経営者）	・客の様子や販売状況、現場第一線の報告などから、現状の厳しさがまだまだ続きそうである。
	その他専門店〔酒〕（営業担当）	・2～3か月後は、消費税表示関係の法改正前後となるため、予測がつかない。売上に変動は無いと思うが、手間がかかるということも悪い。4月以降の新しい体制に期待している。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・客の信用状況が悪い。土木建設需要が最悪である。雇用状況が悪い等といった要素が重なり、地方経済が冷え込んでいる。新年度予算が執行されるまで低迷が続く。 ・昨年度の農家の収入が冷夏の影響で少なく、金回りが悪い。一部の好景気が言われる業種がこちらの地方にはほとんどないためごく一部の工場のみが稼働率が上がっているだけで、全体的に景気回復には影響がない状況が続く。
	高級レストラン（支配人）	・宿泊予約の前年同日比はほぼ横ばいである。 ・宴会予約の前年同日比は、婚礼予約件数が多少苦戦しているため、今後とも苦戦が考えられる。 ・レストランは近隣百貨店の開店等の外部要因により、好調に推移する。 ・惣菜販売も新規販売店も順調で、既存店と合わせてほぼ横ばいで推移する。
	一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の予約状況は、さほど今と変わらない状況が続くと言わざるを得ない。巷では景気が回復しているというが、個人消費の中でもレストランに関しては極めて厳しい状況である。
	一般レストラン（経営者）	・客の低価格指向が依然強く、競争他社の相次ぐ出店により悪いまま変わらない。
	一般レストラン（スタッフ）	・全体的には良くなるような気がしているが、外食産業についてはBSEや鳥インフルエンザなど良くないことがあるため、差し引き変わらない。
	観光型ホテル（経営者）	・現在時における以降3か月の入込みは例年並みである。しかし宿泊料金については客の減少で競争が厳しくダンピングが止まらない。また相変わらず家族連れの比重が高く、館内その他の消費が低く売上が伸びない。
	通信会社（営業担当）	・企業の総務担当と話をすると、IP電話への関心が高く反応もあるが、導入コストがかかるというのが分かった途端に引いてしまう。
やや悪くなる	スーパー（経営者）	・客単価の下落と、買い控えがますます広がる。春になって新商品が出回る時期に、それ以前の商品の処分競争がますます激しくなり、本当の春というより初夏になるまでは景気が落ち込む。
	スーパー（店長）	・BSE問題や鳥インフルエンザ問題等、立て続けに輸入肉への不安が続いている。肉全体の価格高騰が消費を抑える可能性がある。また卵の日付改ざん問題もあり、食への信頼感が薄れている。
	スーパー（総務担当）	・当県では、雪が正月までほとんど無かったため除雪などの冬の経済が停滞し、企業収益を圧迫し、給料にも影響する。それが買物に影響する。 ・円高により更に値段が下がるという懸念材料もある。
	家電量販店（店長）	・上向いていた来客数が、ここに来て陰りが出てきており、単価は依然として低下傾向にあるため、これからは多少悪くなる。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・4月に始まる消費税の総額表示の影響が大きく、この時期に消費マインドはかなり落ち込む。少し景気が良くなると必ずこうした水を差すような政策を実施することに憤りを感じると共に、今後もこうしたことが続くのかと思うと呆れてしまう。特に政策の実施にあたっては、景気浮揚の足かせとなるような悪政はやめてもらいたい。

		観光型旅館（経営者）	・休日前日や連休に客が集中する傾向がますます強くなっている。平日の予約は1週間前でも入っておらず、前日当日でやや客は入る状況である。客の話では宿泊から、日帰り入浴や近場でのレジャーにシフトしているということで、今後宿泊業はますます厳しくなる。
		都市型ホテル（経営者）	・先日、婚礼の受注イベントを行ったが、実績は今年の60%程度に止まっている。一番大きな原因は、複数の同業社の新規参入と競争相手の積極的な設備投資である。受注産業であるホテル業界は、新規参入組への対策と、顧客ニーズを掴む戦略及び効果的な設備投資を展開する必要があり、それを実行しないと業界のシェア争いにも残れなくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客室、レストラン、宴会の薄利多売によるキャッシュフロー重視の経営は今後も継続するが、ここに来て牛肉や鶏肉の仕入れ価格高騰により、一層困難になる。
		タクシー運転手	・客数が増える見込みがない現在で、今後タクシー台数が増える状況にある。新規参入が2～3社あるということで、だいぶ前から乗務員の生活が成り立たないような状態が続いている。
		通信会社（営業担当）	・インターネット以外の部分についても、単価の下落が波及していく。
		テーマパーク（職員）	・2月の予約状況は、昨年対比で70%という状況で、これから先とても不安である。
	悪くなる	スーパー（経営者）	・景気は緩やかに回復といった指針が出ているが、小売業特に個人消費については、そういった状況になるのはまだまだ先になる。客数は緩やかに回復しつつあるが、商品の平均単価の下落や買上個数の減少に歯止めが掛かっておらず、これが続く限りは景気は決して好転せず、むしろ悪化に向かう。景気回復には個人消費の回復が重要な鍵を握っている。
		スーパー（店長）	・3か月先は、2km圏内に大型食品スーパーが開店する。売上、客数共に商圏が重なるため10%以上の影響が出る。
		コンビニ（店長）	・100円ショップの市内出店が進めば、消費者が価格相応の商品ということに気付くまでは短期的にでも流れるため、デフレはますます進む。
		タクシー運転手	・他社より運賃を大きく引き下げたタクシー会社が、無許可営業であったことが発覚した。今運転手は固定給が無く、全て歩合である。経営側はいいかもしれないが、我々運転手はひどいばかりであり、入る人はいなくて辞めていく人ばかりである。こうした状況はもう少し続く。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（従業員）	・航空や海運の物流各社は、荷主の要望を取り入れ、本格的にロジスティックに取り組み始め、新しい商品を提供しており、その効果が期待できる。
		公認会計士	・従来は低調であった注文が、12月に入ってから増え始め、売上が一昨年の10月以来久しぶりに予算をオーバーしており、今後もこの状態が続く見込みである。
		その他企業〔管理業〕（従業員）	・今後も、液晶テレビや新型携帯電話などまだまだ好調が続くと見込まれ、半導体関連業界はしばらくは良い状態が続く。
変わらない		食料品製造業（経理担当）	・3～4月は最需要期であるが、業界をけん引するような新製品が無く、前年並みに、どちらかという低位で安定して推移する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・周囲で退職勧奨年齢の幅、及び人数を増やすという動きをしている会社が増えており、変わらないかもしくは悪くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・景気が上向いているかは判断し難いが、製品需要は依然として逼迫が続いている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・当社の事業エリアは今回の景気回復に運動しにくい状況のため、外部の景気回復感が事業として実感できない。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・金融機関における住宅ローンの貸し出しがもっと活発になれば、景気の上昇につながると思うが、まだまだ年収に対する査定が厳しく、貸し渋りの状態であるため、変わらない。
やや悪くなる		一般機械器具製造業（経理担当）	・為替が、現状の円高水準で推移すれば、輸出環境が更に悪化し、収益が大幅に減少する。 ・自動車部品で、一部メーカーの車両販売に陰りが出ていることの影響が出ている。 ・携帯電話部品の売上がこのところ減少しており、これが当面続く見通しである。

		電気機械器具製造業（経営者）	・年度末を控え3月までは仕事は入っているが、4月以降は全く見えない状況で、前倒しの影響が顕著に出ている。他社の状況では、半導体設備の元気が良く、一年先まで見えるという状況である。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・依然、焼酎人気は衰えを見せず、日本酒のシェアは侵食され続ける。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・冬であり、農家は無収入であるため、消費は自粛ムードである。その関係で商店街も全く活気が無く、我が家でも生産資材の購入をしない。
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・沿岸地域でも工場の増設があり来期に増員が見込まれ、県南においても大手タイヤメーカーの工場では増産計画があり増員が予定されており、人員の供給が間に合わないほど忙しくなる。
		人材派遣会社（社員）	・特にデジタル家電が好調な製造業を中心に、オーダーのニーズが高まっており、先々明るい。
		職業安定所（職員）	・サービス業や製造業の中小企業で、求人意欲が高くなっており、求人倍率が上昇している。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・3月の派遣法改正に伴い、各企業での求人の形態が変わると考えられる。全体的には、雇用形態が変わるということ、景気を左右するというものではない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元の車ディーラー関連を中心に、求人数が多少増えている。流通もここに来て底打ち感が出てきつつあるので、多少なりとも上向き傾向にある。しかし東京からの支店対応の求人オーダーは減少のままであり、上向き気配がない。
		職業安定所（職員）	・建設業、食品製造業、卸小売、飲食店などの企業は、公共工事の減少や、BSE、鳥インフルエンザなどにより先行きに懸念を持っており、厳しい見方を変えていない。
		職業安定所（職員）	・求人の動きが、産業により、また月によりばらつきがあり安定していない。雇用の回復には、求人求職のミスマッチ解消が課題である。
	やや悪くなる		
	悪くなる	アウトソーシング企業（社員）	・今後も、細かい仕事が増え、料金をまけるという声が多く、人件費割合が高い当社の仕事の利益率が低下し続ける。 ・市町村合併により、全体的な景気は悪くなり、大企業主義となり、中小は悪くなるのがこれからの時代である。